

第2回公民館等職員研修会

平成21年2月19日（木）行田市教育文化センター「みらい」文化ホールで開催されました。

主催者あいさつ 小林 永治 会長

私たち埼玉県内の公民館は、昨年5月末日をもって70のすべての市町村が埼玉県公民館連合会を脱会した。しかしながら、今後の公民館活動の振興を考えたとき、県全体の連絡調整、情報交換、研修交流など有効に活動する全県の公民館を束ねる新たな組織を立ち上げる必要性を痛感し、昨年8月26日に57の市町村が参加し、新しく県レベルの公民館組織「埼玉県公民館連絡協議会」を立ち上げた。住民の学習ニーズは多種多様にわたり、地域における生涯学習を推進する中核的な施設として公民館の果たす役割は今後ますます増大していくものと考えられる。こうした時代の要請を受け、地域の人たちの「つどい」「学ぶ」といった機能を発揮してきた公民館が今後一層重要な役割を果たすこととなる。そうした公民館のあり方が問われる今、本日の研修が参加した職員にとって実り多きものとなり公民館運営の一助になることを期待し、あいさつとする。



講演 講師 工藤 日出夫 氏

生涯学習ゆめ・みらい研究所を主宰する工藤日出夫氏を招いて「地域に根ざした公民館活動」～団塊世代の公民館デビュー～というテーマで講演が行われた。社会教育・公民館・生涯学習・地域づくりに30有余年携わってきた経験を踏まえ専門的な見地から公民館の役割や課題について解説がなされた。地域のニーズを知り、地域に根ざした公民館となるために職員としてどう向き合ったらよいかなど具体的にわかりやすく話された。また、子育て支援や団塊世代への取り組みなど大阪府貝塚市や宮崎県綾町の公民館での事例が紹介された。公民館は地域との協働が大切であり、元気な公民館のあるところは、元気な人々がいて、元気な公民館のあるところは地域が元気であると話された。



実践発表

狭山市立中央公民館長 利根川 忠男 氏

「受益者負担の公平性の確保」～免除団体の見直しに伴う有料化実施～というテーマで発表があった。免除制度の見直しの要因から始まり、新しい免除制度の仕組み、実施方法、見直しを実施した結果が利用者にとどのような変化をもたらしたか、また、免除制度の見直しは公民館にとどのような影響を与えたかなどについて、具体的な数字や利用者からの反響などを交えて話された。実際に見直しに取り組まれた発表者ならではの苦労話などを交えた説得力のある発表内容で、参加した公民館関係者にとって施設の有料化を含めた今後の公民館運営について大いに参考になったことと思われる。



閉会のことば

西村 昌志 副会長

2月16日～18日に東京国立オリンピック記念青少年総合センターで開催された第20回生涯学習研究協議会（公民館全国セミナー）での研修内容に触れ、3日間の研修で講演・シンポジウム・ワークショップ・講義・演習など変化に富んだ内容で開催されたことが報告された。中でも2日目の講義「いまさら聞けない公民館の常識力養成講座」では、「公民館・社会教育の謎・不思議10」というテーマで「公民館の「公民」って？・公民館はどうして生まれた？・どうして、ロビーや調理室なんであるの？・社会教育と生涯学習ってなにが違うの？・公民館は、どうしてすぐ団体を作ろうとする？など、普段公民館職員として勤務しながらも、改めて問われると？と思うようなことを再認識することができ、今後の公民館運営を模索していく上で参考になったと締めくくり、閉会のことばとされた。

